

古橋ユキ TANGO TRÍO ライブ

(2017年6月29日 @アート・カフェ・フレンズ (恵比寿))

古橋ユキ TANGO TRÍO のライブを東京・恵比寿のアート・カフェ・フレンズで聴いた。前回聴いたのは同じアート・カフェ・フレンズで2015年6月28日であったから、ほぼ2年ぶりである。その後、父君のご逝去という不幸があったために、少し活動に間が空いたと想像する。

前は CUARTETO 編成であったが今回は TRÍO である。メンバーは

古橋ユキ(Vn)、金益研二(Pf)、鈴木崇朗(Bn)

の3人である。あちこちに書いたことであるが、TRÍO はタンゴ楽団として最小編成であり、それだけにメンバーの力量や音楽性がもろに露呈する編成である。言い換えれば、最高レベルのメンバーが3人揃うことを要求される編成である。その意味で今回の TRÍO はその要求を十分に満たしていると言って良い。

ピアノの金益研二は豪快と同時に繊細さもあるタッチで演奏の基盤を固めている。バンドネオンの鈴木崇朗は最近、方々の楽団で引っ張りだこの様子で、その腕前を益々磨いている。そして文字通りの「才色兼備」のバイオリニストである古橋ユキは、あるプロのタンゴ演奏家をして「あの人のバイオリンは一寸レベルが違います」と言わせるほどの力量である。耳に突き刺さるような高音ではなく、柔らかく包み込むような高音部と響き渡る中低音部は真に彼女ならではのものである。

加えて今回のライブは PA (拡声装置) を使わないアコースティックであったことが非常に良かった。勿論、アコースティックでは各楽器の間の音のバランスが取り難いという問題はありますが、それは3人の演奏家の腕前が十分カバーしている。一方、PA を使ったコンサートでも PA エンジニアのレベルを反映してかロックコンサートのようなレベル配分で興奮めになることが、最近、少なくない。会場の制限はあろうと思うがアコースティックのライブはもっと増えて欲しい。

当日のプログラムは次頁の囲みに示した。実際のプログラムは日本語表記であったが、ここではスペイン語表記にした。殆どはお馴染みの曲目ばかりであり、古すぎも新しすぎもせず、バランスのとれた選曲と言えよう。筆者のようなオールド・ファンにとってはもっとグアルディア・ビエハがあつて欲しいという気にはなるけれども、無理な注文かも知れない。例外として2部の冒頭の「ジプシーの女」は聴いたことのない曲であった(どこかで聴いているかもしれない)。スペイン語表記では“La Gitana”であろうか。曲想からしてコンチネタル・タンゴではないかと思われた。最近アルゼンチン・タンゴ楽団でもコンチネタル・タンゴの曲目と取り上げることが多いが、タンゴのグローバル化という観点でそれは良いことであると思う。1部の6曲目の「マホ・マフ (Majó Majú)」は猫の名前だそうであ

古橋ユキ TANGO TRÍO ライブ
タンゴバイオリンの魅力
アート・カフェ・フレンズシリーズ
vol.17
古橋ユキ タンゴ・トリオ
バイオリン:古橋ユキ ピアノ:金益研二 バンドネオン:鈴木崇朗

古橋 ユキ
金益研二
鈴木崇朗

予定曲目 ボルネドオ・イ・900 マホ・マフ プエノスアイレスの冬 イルシオン・デ・ミ・ビーダ
オブリビオン エル・ジョロン 心の真実(自作) ジェラシー レクエルド エル・チョクロ etc.
(曲目は変更することがあります)

2017年6月29日(木) art café Friends
開場 17:30 開演 19:00
チャージ 4500円 (1ドリンク付) 要予約
全自由席・クラブ人数によりテーブル指定することがあります
ご予約: 古橋 Tel&Fax 03-3675-8979
メール yuquivilin@rouge.plala.or.jp
又はアート・カフェ・フレンズ Tel 03-6382-9050
古橋ユキホムページ http://furuhashi-yuki.com/

る。また2部の3曲目の「デル・バホ・フォンド (Del Bajo Fondo)」は日本語に訳し難いが、ブエノス・アイレスのタンゴ発祥の地域を指す「下町のそのまた下町」といった意味であるという。

プログラム中で duo とあるのはバイオリンとピアノの duo である。古橋ユキはよくこのような duo をプログラムに入れる。このような duo は下手な人がやったのでは大道芸になってしまうが、そうはならないところが古橋ユキである。(余談であるが、フェルナンド・スアーレス・パスのバイオリンとオスバルド・レケーナのピアノの duo の CD (LATINA MUSAS-5008) は名盤である。)

アンコールといえば大概の楽団は「La Cumparsita」で済ませる(それで悪いとは言わないが)が、今回は「El Choclo - La Cumparsita メドレー」であった。これが中々のものでおまけのアンコールには勿体ないと思った。

会場のアート・カフェ・フレンズはそう広くはないこともあってか、ほぼ満席状態で、中には遠く沼津市から駆け付けた人も居られた。

古橋ユキのホームページを見ると、あまり大きくはない会場でのライブが多いようだが、タンゴの生演奏を楽しむためには本当はその方が良いのである。彼女はかなり以前に CD を出しただけで、その後は出していない。CD の制作にはいろいろと困難が伴うことを承知で、そろそろ新しい CD を出してもらいたいと思う。

プログラム

1 部

1. Triunfal (A. Piazzolla) duo
2. Por Una Cabeza (C. Gardel) duo
3. Loca de Amor -vals- (R. J. Podestá - E. Caviglia) duo
4. Disonante (J. Plaza)
5. Muchacha (L. Caruso - E. Suárez)
6. Majó Majú (E. Rovira)
7. Orillera (O. Basil - G. y H. Pelay)
8. Oblivion (A. Piazzolla)
9. Inspiración (P. Paulos)

2 部

1. ジプシーの女 duo
2. Mano a Mano (C. Gardel) duo
3. Del Bajo Fondo (O. Tarantino)
4. Invierno Porteño (A. Piazzolla)
5. La Mano en el Corazón (古橋ユキ)
6. Chiqué (R. L. Brignolo)
7. Ventarrón (P. Maffia)
8. Bordoneo y 900 (O. Ruggero)

アンコール

El Choclo - La Cumparsita メドレー

